

等々力溪谷

世田谷区



等々力溪谷

(東京都指定名勝)

等々力溪谷は、武蔵野台地の南端を谷沢川が浸食してきた、延長約1kmの東京二三区内唯一の溪谷です。東急大井町線の等々力駅から南に歩いて三分ほどの、谷沢川に架かる「ゴルフ橋」脇の階段を下りると、下流に向かって谷沢川沿いに散策路があります。

夏でもひんやりとした溪谷内はケヤキ、シラカシ、コナラ、ヤマザクラなどの樹木が鬱蒼と茂り、川のせせらぎや野鳥の音が聞こえ、溪谷のいたる所から水が湧き出て、都会とは思えない自然に触れることができます。

散策路を下流に進み、玉沢橋(環状八号線)をくぐると、古墳時代末期から奈良時代の頃の横穴墓である「等々力溪谷三号横穴」があります。さらに、溪谷の南端には日本庭園・書院や、桜の名所として知られる等々力不動尊があります。

不動尊から溪谷に下りた所に「不動の滝」があり、古来から今日まで滝に打たれて行をする人々が各地から訪れています。「等々力」の地名は、溪谷内の「不動の滝」の音が響き渡り「轟いた」ところからついた、との言い伝えがあります。

等々力溪谷へのアクセス

- 電車**で
東急大井町線「等々力駅」下車
ゴルフ橋溪谷入口まで 徒歩約3分
- バス**で
等11・等12・東98・渋82「等々力」下車
ゴルフ橋溪谷入口まで 徒歩約5分
園01「等々力駅入口」下車
玉沢橋溪谷入口まで 徒歩約1分
等01タマリパーバス
「等々力商店街」下車
ゴルフ橋溪谷入口まで 徒歩約1分
「等々力不動尊」下車
等々力不動尊まで 徒歩すぐ



所在地
等々力一丁目22番先
等々力二丁目32、38番先
中町一丁目1番先
野毛一丁目15番～17番先外

公園区域面積 30,210.44㎡
日本庭園区域の開園時間
9:00～17:00(3月～10月)
9:00～16:30(11月～2月)
年末年始休園(12月29日～1月3日)

○大雨の時は急に川の水かさが増します。川に近づかないようにしてください。
○夜間照明の無いところがあります。暗くなってからは立ち入らないようにしてください。

世田谷区みどりみず政策担当 公園緑地課 玉川公園管理事務所 電話 03-3704-4972 ファクス 03-5706-1361
編集協力 等々力溪谷保存会 等々力不動尊

平成 29 年 6 月印刷

歴史

等々力溪谷を含む地域一帯は、昭和八年（一九三三年）に多摩川風致地区に指定されました。東京府の緑地計画の一部として、護岸と川沿いの遊歩道の整備事業に着手し、昭和十一年に竣工しました。昭和三二年（一九五七年）に風致公園として都市計画決定され、東京都が昭和三十六年から三十九年にかけて整備をしました。そして、溪谷沿いの一部を中心に昭和四十九年に世田谷区立等々力溪谷公園として開園しました。その後、計画区域内の用地取得と整備を進め、現在は三ヘクタールを超える区域が公園となっています。

また、等々力不動尊の敷地を含む、溪谷一帯の約三・五ヘクタールの区域は、平成十一年三月に東京都文化財保護条例によって「名勝」の文化財指定を受けました。

溪谷の水、湧水

等々力溪谷を構成する谷沢川は、現在の上用賀六丁目付近を水源とし、用賀・中町を貫流します。そして等々力駅付近から溪谷の様相を呈しはじめ、溪谷内で不動の滝も合わせ、その後、一部が六郷用水（丸子川）へ、残りは多摩川へと流れていきます。この谷沢川には、平成六年（一九九四年）より仙川浄化施設からの導水が始まり、水質の改善がおこなわれました。

また、等々力溪谷には約三〇箇所以上の湧水が発生し、一部は窪地に集まって湿地を形成しています。

谷沢川の水質は、ゴルフ橋から下流に行くにしたがって改善されていることから、この谷沢川に流れ込む湧水が、水質や水量の維持に大きく寄与していることがうかがえます。

等々力溪谷の湧水は、東京都により平成一五年（二〇〇三年）に「東京の名湧水五七選」に選定されています。

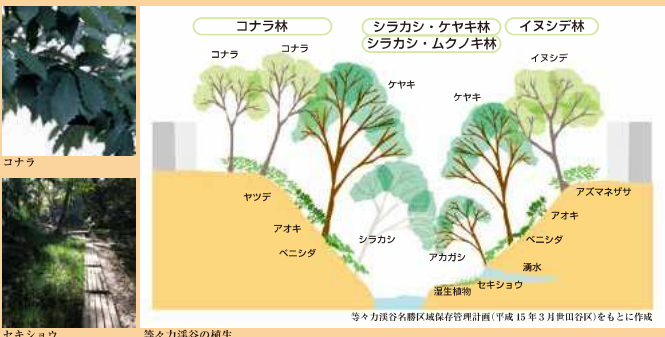


植生

等々力溪谷の植生は、武蔵野台地の崖線の潜在自然植生と考えられるシラカシ群集ケヤキ亜群集であり、大径木を主体とした樹林地が溪谷の斜面に沿って連続しています。

崖線の斜面部分には、主としてシラカシやケヤキ、ムクノキが、斜面上部や台地にはイヌシデやコナラが多く分布しています。

また、湧水が流下する緩斜面にはセキショウ草地が見られ、湧水が溜まる場所には湿生植物が点在しています。



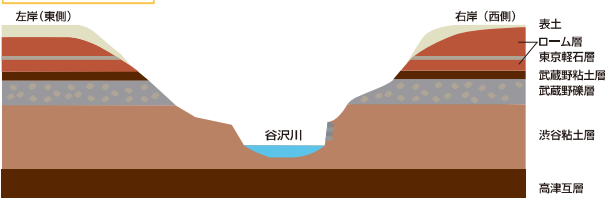
等々力溪谷名勝区域保存管理計画（平成15年3月栗田谷区）をもとに作成

セキショウ

地形・地質

等々力溪谷は、武蔵野台地の南端に位置しており、この台地を浸食して形成された開析谷です。溪谷沿いには、武蔵野台地を特徴づける地層断面がよく観察できる箇所があります。地質の分布状況は、下から、台地の基盤である上総層群の高津互層（泥岩層）、その上に堆積する渋谷粘土層、武蔵野礫層、武蔵野粘土層、東京軽石層、ローム層（武蔵野ローム層、立川ローム層）の順にほぼ水平に堆積しています。また、渋谷粘土層と武蔵野礫層の間からは、湧水が多く見られます。

玉沢橋付近の地層



等々力溪谷の自然環境保全促進に関する基本調査報告書（昭和54年2月栗田谷区）をもとに作成

ゴルフ橋付近で観察できる地層



木の根元付近が、礫層と高津互層の境目

ゴルフ橋

東急大井町線の等々力駅近くの入口にある橋は、「ゴルフ橋」と呼ばれています。これは、昭和の初め頃、旧下野毛に東急電鉄が開発した約八ヘクタールの広大なゴルフ場があったことに由来しています。現在の橋は昭和三十六年（一九六一年）に架けられたアーチ鋼橋で、それ以前は木橋でした。



昭和33年頃のゴルフ橋

現在のゴルフ橋

野毛大塚古墳

(東京都指定史跡)

等々力渓谷近くの玉川野毛町公園内にある野毛大塚古墳は、現在の大田区から世田谷区にかけて展開する荏原台古墳群のひとつ、野毛古墳群の中心となる五世紀初頭に築かれた大形の帆立貝形古墳です。帆立貝形古墳とは、前方後円墳の前方部が小さくなり、上から見るとときに帆立貝のような形に見える古墳を言います。

古墳の規模は、周濠を含め全長一〇四m、墳丘長八二m、後円部直径六八m、高さ一〇m、前方部幅二八mで、前方部の脇に造出部がひとつあります。墳丘上からは、四基の埋葬施設が確認され、多くの武具等が発見されました。前方部と造出部は削られていますが、現在は復元整備されています。古墳の主は、出土した副葬品などから、当時の政治の頂点であった畿内王権と直接的な交渉があったことがうかがえ、南武蔵（現在の東京都と神奈川県の間、横浜市の一部）の小豪族たちの上に立つ大首長であったと考えられています。

等々力渓谷とその周辺には、等々力渓谷三号横穴、この野毛大塚古墳、御岳山古墳 等々力ノ一八、狐塚古墳（尾山台二ノ一七）などの遺跡が国分寺崖線沿いに分布しています。



等々力不動尊



瀧澤山明王院等々力不動尊は平安時代の末（一〇〇年頃）に、真言宗中興の祖、興教大師覺鑊上人が開かれた霊場で等々力の「お不動様」として親しまれています。戦国時代には世田谷城主の時田吉良氏が戦勝祈願を祈り、村人は厄難招福を祈りました。

「お不動さま」から渓谷に降りると開創由来の「瀧」（不動の滝）があり、古来から今日まで瀧に打たれ行をする人が各地から訪れています。この瀧の轟く音が、「等々力」の地名の由来という言い伝えもあります。境内は数多くの桜や紅葉も美しく、等々力渓谷を代表する自然豊かな樹林地となっています。



等々力渓谷 三号横穴

(東京都指定史跡)

渓谷の東側崖面では、古墳時代末期から奈良時代にかけて構築された横穴墓が六基以上発見されています。中でも昭和四八年（一九七三年）に発見された三号横穴は、典型的な横穴墓の形態を留めていて、埋葬人骨や副葬品も良好であったことから保存処置が講じられました。横穴墓は奥行き約一三mで、内部は徳利を半分に割ったような形をしています。玄室、遺体の安置場所と羨道からなる墓室と、これに至る墓道に分かれており、この間を凝灰岩で組まれた羨門で区画しています。横穴墓からは、須恵器の平瓶、横瓶、刀子、金銅製耳環などが出土しました。本横穴群の被葬者たちは、いずれも副葬品が豊富なことから、後の武蔵国荏原郡の等々力周辺を治めていた有力者であると推定されています。



凡例 / Legend

- トイレ
Toilets / 厕所 / 화장실
- 古墳
Ancient tombs / 古坟 / 고분
- 公園
Park / 公園 / 공원
- 都指定史跡
Tokyo Metropolitan Government-Designated Historic Site
東京都指定史跡 / 도쿄도 지정 사적
- 出入口
Entrance / 出入口 / 출입구
- バス停
Bus Stop / 巴士站 / 버스정류장
- 広域避難場所
Safety Evacuation Area
广域避难场所 / 광역대피장소
- 主な地層観察地点
Key locations for observing geologic strata
主要的地層观察地点 / 주요 지층 관찰지점
- 主な湧水・湿地観察地点
Key locations for observing springs and marshes
主要的湧水・湿地观察地点 / 주요 용수·습지관찰지점

< 車いす・バギーで通行できる箇所 >

矢川橋から利剣の橋付近 / 日本庭園の一部 / 等々力不動尊本堂前
※詳細については玉川公園管理事務所までお問い合わせ下さい。



日本庭園・書院



等々力渓谷沢川の下流部、等々力不動尊の対岸に、昭和三十六年（一九六一年）に建築された書院建物とそれをとりまく日本庭園があります。池、流れ、石畳の階段園路などがある庭は、昭和四八年に著名な造園家により作庭されたもので、当時のままの姿で保存されています。園内には陽当たりのよい芝生広場があり、

併せて、渓谷散歩の休憩にご利用いただけます。また、庭園周辺には、竹林やみかん畑があり、子どもたちによるたけのこ掘り体験やみかん狩り体験が、地域の等々力渓谷保存会によって行われています。

